

2020 年度研究成果公開促進費（学術講演会等） 成果報告書

【報告者所属・氏名】

人間社会学部 人間社会学科 駒谷真美

【タイトル】

Society5.0 令和の保育シンポジウム

【講演者所属・氏名】

白梅学園大学名誉教授	無藤隆
お茶の水女子大学名誉教授	榊原洋一
目黒区立みどりがおかこども園園長	高橋慶子
実践女子大学生生活科学部教授	松田純子
実践女子大学人間社会学部教授	駒谷真美

【開催日時・場所・来場者数】

日時： 2021 年 2 月 14 日（日） 13 時 ～ 15 時 30 分

場所： ウェビナー（V-CUBE） V-CUBE 恵比寿スタジオ Octo にてオンライン収録

来場者数： 120 名

【学術的な成果】 シンポジウムを通して、乳幼児教育・小児医学・保育の現場・保育者養成の視点から、“半歩先の未来”の保育を提言できた。令和になっても変わらない保育は、最後まで AI が代替できない、保育者が日々実践されている保育である。保育者は非認知スキルに関して重要性を十分に理解され、レジリエンスにつながる働きかけをしている。その半歩先の保育として、保育者として QOL を高めていくためにも、ICT の活用は可能性があることが示唆された。ICT 任せもしくは妄信するのではなく、子どもの経験としてはどうなのか、子どものために役立てることは何か、その都度踏みとどまり、ICT と上手く関わっていくことが、いずれ子どもたちの生活に還元されていくことの重要性について、コンセンサスを得たことは大きな成果である。

【広報面での成果】 全体的にネットを活用した募集が功を奏した。2019 年度に WEB 実施した「令和さいしょの保育者アンケート」の回答者も参加していた。主催者とシンポジストが、乳幼児教育・心理学の研究者や学会、保育者にシンポジウム情報（URL・QR コード）をメーリス等で WEB 公開したので、ターゲット層のオーディエンスを収集できた。またデジタルブックの報告書を作成したので、成果は一過性ではなく、クラウドで継続活用される。

【今後の課題・展開】 申請時には本学において対面でのシンポジウムを予定していたが、コロナ禍によりオンライン・ウェビナーに変更した。今後の課題として、平時・有事に臨機応変に対応できるスタイルで講演会を準備する必要がある。加えて、ウェビナーで実施した結果、多く保育者・研究者に参加してもらえたことから、オンライン講演会も発展が期待される。